ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行２０２１年１月１日

１月　第２２７号

奈良・人と自然の会

＜丑もいろいろ。力合わせて今年も楽しく！！＞

Contents

ホームページでは、カラーで見ることができます

URL http://www.naranature.com

壮春力歩	1	私の○○○○	8
Monthly Repo ならやま	2	ならやま投句箱	9
里山の今・虫だより	3・4	字遊字感	10
月例研修会・レポ	5	ならやまプロジェクト	11
歴史文化クラブ研修会・レポ	6	行事案内	12
芋煮会・レポ	7	幹事会報告・編集後記	13

壮春力歩　我道一以貫之

会長 鈴木 末一

コロナ禍が収まらないなか、新しい年を迎えました。今年は会創立 20 周年、成人の年であり、ならやまプロジェクトの 15 周年です。記念すべき節目の年にあたり、会の歴史を再確認し、さらなる発展の道筋を見つける年にしたいものです。

顧みますと、当会は 2001 年 9 月 24 日、大和の自然をこよなく愛し、自然環境保全活動に情熱を傾注する 45 名の先達の皆様方が一堂に会し、初代会長川井秀夫氏のリーダーシップの下に力強く呱々の声を挙げられたのでした。全員がシニア自然大学校での研修を深められてきただけに、理論と実践の狭間ではそれ相応の葛藤が繰り広げられたと仄聞しています。この際、ならやまプロジェクトの略史を振り返ります―。

当会は、東海自然歩道自然観察会、生駒市西畑町の棚田の復活整備、柳生忍辱山国有林の間伐体験活動などに勤しむ日々を重ねる中で、日本の原風景である里山林の景観形成整備保全に取り組める本格的な活動拠点を探求する声が日増しに高まっていた。2006 年、奈良県風致保全課(現在の景観・自然環境課)が、ならやま里山林の景観形成整備保全活動ボランティアの公募をしているのをキャッチし、幹事会で協議を重ねることにした。その後、2007 年 3 月 13 日の定例幹事会において、討議事項として黒髪山キャンプフィールド隣接地の活動団体募集に関わる対応について提案されたが結論に至らなかった。4 月 3 日の定例幹事会で、黒髪山森林整備作業の受託案件として討議された。古都保存法に基づき奈良県が買収した物件。山林の間伐、原野の草刈等、現状凍結保存の趣旨に沿った管理作業が求められる。現状を変更しない範囲での利用は自由。契約期間は 2 年間。多面的な討議の結果、当会の社会貢献事業の一つとして取り組むことを決定。5 月 3 日、9 名が参加して第 1 回の活動に着手。竹伐採、除草、椅子作り等、最低限のインフラを整える。

5 月 14 日の通常総会において、川井会長から「新しい活動拠点として、県有林の古都景観保存法に基づく里山、山林・竹林の整備を佐保・奈良坂の地で取り組む。現地調査を実施し、活動プランの作業を進め、今秋から本格的な活動を始めたい」との決意表明があった。さらに、「地の利も良く、雑木林、未開の農地、柿・実梅の大木が象徴的で、楽園作りの夢が広がります。皆さんの大人の居場所としてご参加をお待ちしています」と呼びかけられた。5 月 17 日、奈良県担当者立ち会いの下に 10 名が参加して、B ゾーンにある畑予定地(現 BC 東隣の畑)の草刈り、果樹園あとの調査、対象里山林(現ならやま里山林)の植生を視察し、里山遊びや観察会に好適であると判断。昼食は採りたてのタケノコでバーベキューをし、今後の夢を語り合い大いに盛り上がったという。

以来、シニア自然大学校研修生を主軸として会員数は増加した。しかし、シニア依存から脱却し、地域住民の参画を推進しなければ、会の発展は見込めないのでは、との観点から地域への情報発信に努めるとともに、公開イベントを通じて会の活動への理解を深め、積極的に広報活動にも取り組むようになった。徐々にその成果が上がり、社会的認知度も高まっていった。その頂点とも言えるのが、平成 29 年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰受賞である。また、朝日新聞「天声人語」の「知恵と経験は一万二千歳を超す」との市民目線による評価だ――。

いま、草創期に掲げられた 3 つの「会是」を再確認しておきます。①人の和②創造③実践です。170 余人もの個性集団ですが、自然を愛するアイデンティティは共通のもの。たかがボランティアされどボランティアです。よそ見せず、禅でいう「我道一以貫之」の姿勢を大切にする 1 年にしましょう。

Monthly Repo.　ならやま

徳地 恵男

11 月 26 日（木）　活動　晴れ　　88 名
実習生４名

朝の打合せで会長より佐保台小学校で全校の子供たちがならやまの黒米を給食で食べたこと、おいしいと好評だったことが報告される。

シニア生４名も活動に参加。里山Ｇはコナラの伐採シイタケの収穫、マキ割りをする。エコＧは秋冬野菜の収穫と補助水タンクの設置、景観Ｇは佐保自然の森で笹、雑木の伐採をする。ビオ班は西池水生生物調査、水路にＵ字溝を入れる。花班はシラン園の掘り起しをする。パトＧは展望広場の準備工事とツルリンドウの保護柵を作る。果樹Ｇはブルーベリーにチップを敷き詰め、剪定の勉強会も実施する。充実した一日の作業の後、焼き芋のごちそうになる。

12 月３日（木）　活動　晴れ　　77 名
見学者　１名

コナラの紅葉でならやまが黄金色に輝く時期となる。朝の会で二上山登山の報告がある。協働活動は 50 名近くがヘルメットを被り佐保自然の森に集合。古木の枝や竹、刈り取った笹を片づける。里山・景観Ｇは引き続き林内整備に精を出す。エコＧは次週の芋煮会に向けた準備をする。花班は花しょうぶ園の草引き、パトＧは観察路の手すりを補修する。果樹Ｇはプラム、サクランボの苗木を植える。アダプト活動で国道周辺に散乱したゴミを収集する。

終礼後「マイサンタ」つくりをする。径６㎝位の木にサンタの顔を描く。目やひげの付け方で様々な表情のサンタができ可愛い置物になる。会長から材料など全て用意していただいた上、指導もしていただき深く感謝。

12 月 10 日（木）　活動　晴れ　　79 名
近畿大学北川先生、学生３名

初霜が降りる。芋煮会に向けて朝からエコＧと炊事係が忙しく準備をする。昼食にでた芋煮が格別に美味しく２杯目３杯目と列ができる。ならやまの野菜の恵みに感謝してみんなで味わう。昼には水生生物調査の結果を近大の北川先生から聞く。繁殖に取り組むニッポンバラタナゴの個体数が確実に増えており、私たちの活動の成果であると。日が昇るにつれて暖かくなり各グループの活動は計画通り順調に進む。クラブ・ユートピアは実践区の落ち葉かきと下草刈り。展望台広場の見晴台用に枕木が搬入される。

12 月 17 日（木）　活動　晴れ　　72 名
実習生１名

薄氷が張る一番の寒さ。今日は幹事会のメンバーは里山活動の体験学習会を実施。前半はコナラの本数調査、後半は林内を回りながら活動の実際を学ぶ。豊かな自然形成に向けた 10 年余りの活動を理解する有意義な学習会となる。里山Ｇはコナラの伐採。エコＧは冬野菜の収穫、ぼかし肥づくりをする。景観Ｇは佐保自然の森の伐採作業をほぼ終了させる。ビオ班は池整備の準備、花班は花畑の整理をする。パトＧは観察路の整備、果樹Ｇはハッサクの収穫をする。午後３時から場所を移してならやまプロジェクト委員会を開く。

里山グループ

◆それぞれの里山

池山　良武

「ならやまプロジェクト」の活動日は楽しみである一方で、主治医の診察が木曜日になっていることにプラスして季節的には、往復７時間もかかる自称「丹後ファーム」の維持管理に追われることもあって、ご無沙汰すること多々である。

ならやまプロジェクトと丹後ファームの違いと、共通点が幾つかある。

まず、多人数で活動することと、個人である。山、景観、ビオトープ、パトロール、花、果樹など、グループ分担は無いので一人で全てに関わらなければならない。草刈り、水路の整備も手が抜けない。水路には他ではあまり見られなくなったアカハライモリも生息しており、住まいを襲わないよう気遣っての作業もある。大きな違いは鳥獣被害対策である。ならやまプロジェクトのカラス、鹿は序の口で、猿、猪、熊対策である。猿にカボチャを、猪にジャガイモ・サツマイモ・ヤマイモを、熊に柿・栗をやられる。完全防備など不可能で、彼らに成果物をどれだけ残してもらえるかのレベルである。周辺の農家では、電気柵や熊捕獲の檻を仕掛けているが、全ての鳥獣に有効な手立てはない。

性懲りも無く「丹後ファーム」に通う心境は何か。自問してみるが、明確には出てこない。多分誰もが持っている土への愛着、習性のようなものではないかと思う。

「骨折り損のくたびれもうけ」何故そこまでして頑張るのと思うこともある。

ならやまプロジェクトには、２時間近くもかけて遠方から来る方もあると聞く。それでも一日をここで過ごし疲れはするが、清々しい気持ちで帰るときに味わうそれは、今日を生きている有難さを体が実感するからではないか。

エコグループ

◆エール

岸谷　和代

「米は、字のとおり人の手を 88 回通って一粒の米となり、畑の作物は、人の足音を肥やしに大きくなる」と言って畑仕事に精出していた父。縁あってならやまに通って 12 年。この頃よくこの言葉を思い出す。春の訪れと共にやってきたコロナと異常気象は私の心に不安をはこんできた。

「お天とうさん任せ」と言われる畑作業も、時は待ってくれず、臨時作業日が続いた。９月初め今年の大根の作付け作業が始まり、畑は天の川、品種はＹＲくらまの青首大根と決定 。ＹＲとは萎黄病に強い品種に付いている略記号。くらまは、肌が滑らかで艶があり、肉質は極めて優れる、と種袋の能書にある。「大根十耕」ふかふかの床を作る人。細く長い畝に一粒一粒丁寧に種を落としていく人。「しっかり芽を出しておくれ」と力水をたっぷりやる人。皆の思いは一つ。７日後、見事な芽出しで応えてくれた健気な姿に一同大感激。双葉から本葉へと作業する手も軽やかに土寄せ、間引き、追肥と進む。「どう？大きくなった？」の問いかけに「うん！」と白い茎をみせる。こんな楽しい問答を重ねて 90 日。今、天の川には 300 本余のくらまが出番を待っている。冬の寒さに晒された大根は甘味が深くきめ細やかでとても美味しい。丸大根は、煮物に。紅心大根は、生食で。くらまは、千両役者。

植物の成長は心を豊かにしてくれ、育てる喜び、味わう楽しさを与えてくれる。励まし励まされ、コロナ禍の中、野菜達に元気をもらった一年であった。

景観グループ

◆ならやまの周辺散歩

越智 健介

健康の為、１日１万歩を目指して、水上池、ウワナベ、コナベ、磐之媛命陵（仁徳天皇皇后陵）等を歩いています。11/21～23 にはウワナベ古墳の初の一般公開があり参加しました。前方後円墳全国ランキング 12 位（270～280ｍ）だそうです。説として八田皇女（やたのひめみこ）が被葬候補者の一人ともいわれています。彼女は磐之媛命（いわのひめのみこと）の後の皇后であったとされている・・。磐之媛命は嫉妬深い女性であり、磐之媛命が八田皇女を妃とすることを許さなかったらしい。なぜ仁徳天皇陵の２人の皇后陵が天皇陵からこれほど遠いところに並んで隣にあるのか？いろいろ妄想できて面白い。

また水上池には、なぜか白鳥（コーちゃんという名前だそうだ）が１年中住んでおり、餌（主にスギナ）をやるのも楽しい時間です。コロナのおかげでかえって健康になったかも？？

●佐保自然の森竹林整備と除草

ベースキャンプから佐保自然の森は道沿いで２キロ以上あり、自走式草刈機を押して行くと 30 分以上かかります。以前から観察路で山越えできないかと思っていました。今回、２タイプの内、小さい方の自走式草刈機で挑戦してみました。なんと半分以下の時間に成功しました。近隣の地権者も考慮し、道の溝などはほとんど整地せずに走破できました。

これで、軽トラが無くても、いつでも佐保自然の森に草刈りに行けます。

大きい方の自走式草刈機も、もう少し道を整備すれば行けるかも？・・来年はぜひ挑戦してみたいところです。

虫だより

◆昆虫の英語名（２）

菊川 年明

ハエ

ハエの英語名は fly（フライ）であるが、fly は広く飛ぶ虫も指している。それで頭に言葉を冠して幾種類かの昆虫の名前になっている。

トンボ

トンボは dragonfly である。（飛ぶことのできる）竜虫ということであろうか。精悍な容貌と胴が長いところから竜になぞらえたのであろう。オニヤンマなどを見るとなるほどと頷ける。ちなみに、トンボという名前は「飛ぶ棒」からと言われている。

ホタル

ホタルは firefly である。説明を要しない絶妙の名付けである。

チョウ

チョウは butterfly である。「バターの飛ぶ虫」？ということになるが、意味不明である。最初は黄色っぽいチョウを指していたのがチョウ一般の名前に変化したとの説もある。

バッタ

バッタは grasshopper である。草むらをぴょんぴょん跳ねるからで、うまい名付けである。

スズムシ

スズムシはコオロギと同じ cricket だそうである。英語圏ではわが国のように虫の声を愛でる風習はないので、草むらで鳴く虫は一括りにして cricket と呼んでいるようだ。ただし、bell（鈴）cricket という呼び名もあるそうだ。

月例研修会レポ

當麻寺・二上山（雄岳・雌岳）に登る

戸田 博子

12月1日、コロナ感染拡大により、新体制になって4回の月例研修会が中止、今回が今年度初めての例会となり20名が参加しました。

暖かく快晴の中、近鉄当麻寺駅を出発。まずは當麻寺境内で、寺の起源や見どころなど羽尻世話人のお話を聞いていると「春のボタンの季節もまた来たいね」と言う声が聞こえます。

境内を出て当麻池を過ぎると、鳥谷口古墳があります。宮内庁指定の大津皇子の墓は、二上山雄岳頂上にありますが、ここが本当ではないかと言われています。

中井世話人のお話を聞きながら、天武天皇の第3子でありながら、謀反の嫌疑で処刑された大津皇子の悲しい生涯を皆さん想像したでしょう。

古墳を後にしばらく歩くと祐泉寺につきます。これより登山道、小さな水の流れに沿って急な道を登って行きます。着てきた衣服を、皆さんドンドン脱ぎ始めました。

イチョウなどさまざまな色の落ち葉を踏みしめながら、ひたすら登ること1時間で馬の背に到着しました。ここは雄岳と雌岳の鞍部にあたります。行程としては、先に最高峰雄岳（517m）に登り、また鞍部に引き返して雌岳（474m）に

登るので、ここで休んで居たい気持ちになりますが・・。そこに中井さんの激が飛びます。「ここまで来て登らないと後悔しますよ。又来ようの気持ちは捨てましょう」。全員納得、キチンと登りました。

雄岳では大津皇子のお墓をお参りし、鞍部に引き返して雌岳に登頂しました。

雌岳頂上で20人が分散して楽しい昼食です。ここからの展望はすばらしい。東に大和平野、西に河内平野が一望できます。こども園の遠足で30名ほどの園児がいて、それはにぎやか元気、私たちとは違う思い出が作れたでしょう。

雌岳頂上には、太陽の道の標識が設置されています。北緯34度32分の線上に、大和盆地の著名な神社仏閣･遺跡が一列に並んでいます。東は伊勢から、西は海を越えて淡路島まで、東西一直線は太陽崇拝と関係があり、「太陽の道」と呼ばれているそうです。

下山開始。金剛・葛城山に向かって降り、岩屋峠から奈良県側に急坂を下ります。

登って来たときと違って、皆さん黙々と足元を見つめながら歩いて祐泉寺に、一休みしてから當麻寺の中将姫の墓まではにぎやかに下り、雌岳からわずか1時間弱で着きました。

疲れていると思いきや下りはすごく速く、予定通り當麻寺口に帰って来ました。

二上山の霊気が私たちに力をくれ、久し振りのおしゃべり（三密を避けて）がエネルギーになったようです。

「2020年秋、コロナウィルス流行のときに行った二上山は良かったね」と思い起こせる行事だったと思います。

悲劇の弟を偲んで詠んだ姉・大伯（おおくの）皇女の歌を添えておきます。

うつそみの　人なる我や　明日よりは
二上山を　弟世と我が見む

歴史文化クラブ研修会レポ
興福寺・大安寺の歩みと今
―廃仏毀釈を経て―

羽尻　嵩

本年度はじめての歴文クラブの行事となった 12 月 15 日、この冬初めての寒波がやってきた。そんな中、熱意ある 22 名が集まった。

今回の研修は、奈良の興福寺と大安寺を訪ねて、住職さんに寺の歴史と明治の「廃仏毀釈」について話を聴かせていただき、仏教についての理解を深めるのがテーマです。

1868（慶応四）年、江戸幕府に替わって、新政府がすぐに出したのが神仏分離令ですが、これは新政府が、江戸幕府に代って日本全国の寺院の勢力をなくし、神社の権限を強めるために出した命令です。ところが、その**神仏分離令が出されると、**虐げられてきた神官や村人達が寺に押しかけて、仏像・経典を壊し、寺や神社から僧侶を追い出す暴動が全国に広がっていった。この暴動事件を「廃仏毀釈」という。

興福寺･･･参加メンバーはまず、東金堂、国宝館の仏像を拝観し、その後、寺の講堂で大森俊貫氏（副主任）のお話を聴く。100 人は優に入れる講堂に入ると、離れて椅子が並べられ、扉が開けられていて、寒い外気が入り込んでいた。

パワーポイントでの説明。興福寺は他の地域と違って、僧侶自ら僧侶の身分を返上したので神官や地元住民との大きなイザコザは少なかったが、政府に広い領地を取り上げられ、無人となった建物の中で、多くの仏像が何年も放置されて被害を受けた。廃仏毀釈直後に撮られた数枚の写真が映された。中金堂の片隅に雑然と放置された数体の仏像は、死体のようにみえた。中でも、手の一部がもがれた阿修羅像の写真は、人間どもの仕業を深い悲しみの目で見つめているようだった。

登大路の前の興福寺の境内を取囲むガッシリとした屋根付の土塀を撮影した写真。(敵兵の攻撃を防御するために造られたと思われる)。その土塀は、廃仏毀釈後にすべて取り払われていてそこに土塀があったことを知る人は少ない。

今はここにおられる僧侶は７名とのこと。寺の研究部門の唯識論についての質問には、大森さんから明快な答えが返ってきて、参加メンバーも目から鱗の感をもたれたようです。

大安寺･･･バスで大安寺に移動し、大安寺の講堂で昼食をとり、河野良文貫首のお話を聴く。

大安寺は飛鳥時代の氏寺から奈良時代には仏教を学ぶ国営のお寺として、インド、ベトナム、中国の僧侶がすべてここで教学し、またこの寺を完成させた道慈や、平安時代以降の仏教を広めた最澄や空海も学んだ大寺だった。その後何度かの火災で伽藍が消失し、江戸時代の終わりには廃寺のようになっていたとのことで、明治以降は寺院の復興には苦労されたとの話であった。

感想･･･今回、このテーマを選び、なぜ廃仏毀釈の暴動が起きたかその要因を探れたこと、また、奈良のお寺について多くのことを知り得たことに感謝します。

芋煮会・レポ

三瀬 英信

今年の芋煮会は、コロナ感染拡大第３波を前に、どうするかの議論もありましたが、伝統的なイベントでもあり自粛一辺倒では如何かとの声もあり、結論として、感染拡大防止策の一策として、メニューを“芋煮”の一点に絞り、配膳もテーブルに置いた器にワンバイワンで注ぐなどの配慮をしながら簡素に行うことになりました。

12 月 10 日（木）の芋煮会は好天に恵まれ、ソーシャルディスタンスに気を付けながら、特製の芋煮に舌鼓を打ちました。参加者は、ビジターを含め約 80 名でしたが、材料の仕込みは例年通り 100 名分を目途としました。エコグループは朝一番に保存しておいたゴボウの掘り起こし、大根をはじめとする野菜の収穫。勿論主役は、ならや産の里芋“越前大野芋”。エコの男性陣を交えて皮むきを行い、野菜類の下ごしらえから調理は賄い担当と一緒に手際よく進められ、芋煮会開始の 12 時前には“特製の芋煮”が出来上がっていました。

国産和牛に“ならやま”の新鮮な野菜を煮込んだ絶妙な醤油味の芋煮は、例年にないほどの素晴らしいお味。ある会員様曰く“10 年来の芋の中でも今年の芋煮は絶品！！”とのお声。調理に当たっていた女性曰く“最後のお塩一つまみが効いたよね”と。

古くにこんな逸話があります。徳川家康から「この世で一番うまいものは？」と尋ねられた近習（身の回りの世話をする側近）の答えは「塩」である。また「一番まずいもの」も「塩」であると。さて、その心は？　古今洋の東西を問わず、味の決め手は塩加減“塩梅”にありとの言われです。つまりは、食する人への“心配り”が“塩梅”をさせるのでしょう。また、“塩梅”は、何事にもバランスが大切ということにも通じています。

今年は新型コロナで始まり、世の中が一変しているままに、新年を迎えることになってしまいました。私たちの“ならやま”活動も一時期中止や自粛を余儀なくされ、各グループの活動にも大きな影響が出ました。エコファームは、季節と共に生育する作物がお相手で、時期を逸するわけにはいきません。依って、夏場から秋口にかけて多くの臨時活動を余儀なくされましたが、そのお陰で秋～冬野菜は、優等生とはいきませんでしたが、何とか大幅減少を免れました。

春にはワクチンも一般に拡大されるでしょうが、今しばらくは自粛しながらの活動になると思われます。一日も早く新型コロナを克服し、社会に落ち着きが戻り、明るく、楽しい語らいの日が訪れますように。2021 年が良い年でありますようにお祈りいたします。

私の自然との付き合い

寺野 金三

今何をしているのか、また何をするのか。

今私は自然と向き合い無理をせず・安全に・楽しくが、モットーで日々暮らしております。コロナの事も今どうすればいいのか考えながらも、奈良・人と自然の会に参加を控えねばならないと思っております。

さて自然と付き合いながら生きて来たことを書いてみました。

まずは一つ目

畑仕事にかなりの時間を割いております。自宅に少しの野菜を育て、さらに彦根に農地を借りて１週間に１～２泊とまりで通っております。さらに知識と道具及び機器の使い方を得るためにも奈良・人と自然の会に入りました。（エコファーム）

（イチゴ、野菜の自動水まき装置）

会に入ってそろそろ１年になります。思うようにはなかなか行きませんが、少しずつ物にして行きたいと思っております。

２つ目

自然観察です。幼いころから７つ上の兄に連れられて近くの山・川によく行っておりましたので自然と、樹木・野草等の写真を撮る子でした。その後一人で少し大きな山も行くようになって、観察の知識に対して欲が出たのでしょう。そこで地域の観察会に参加し知識を得る勉強会に参加するようになり、交野里山ゆうゆう会そしてシニア自然大学校でした。勉強より飲み会の方が多かった様ですが。

（私市植物園・紅葉の観察）

３つ目

さらに勉強するために森林インストラクターに挑戦し、本当に長い時間をかけてやっと取ることが出来たのは、65 歳でしたねぇ。あれから５年ですよ。今はぐうたらですが何とか続けてこれております。

４つ目

森林整備の活動です。知識と経験を得るため、さらに森林大学に入って実践とテクニックを学び、卒業後は色んな活動地に参加しチェーンソー・刈払い機等そしてロープワークによる作業、また草刈り・竹林整備・森林整備等やっており、倒木・なら枯れ処理・間引き間伐・植樹と忙しく活動しております

（ヒノキの皮むき体験）

５つ目

そば打ちが抜けておりました。食べる事も好きですが、やはりそば打ちも楽しみですよねぇ。まだまだ未熟でありますが指導よろしくお願いします。

以上

私のモットーは無理をせず・安全に・楽しく、そして目標として三得です、一つ目は技術を得る　二つ目は知識を得る　三つ目は体力を得るですよ。

学習をし、経験そして実践をすることであります。

さらに美味しいお酒を飲むことが一番であります。仲間とともに。

ならやまトーク・投句

〈迎春〉

ハヤブサに思いも新た年男　千載輝重

（ハヤブサⅡ号、完璧に使命を果たし次の任務へと出発。今年に期するものありと年男の宣言。存分のご活躍を期待したい）

駅伝の襷をつなぐ初春へ　藤原勲

（コロナ禍の中の高校駅伝、４７校が溌溂と都大路を駆抜けた。悪条件下でのトレーニング、周到な準備をした大会運営、現状を拓く着実な努力の先に明日が見える。新しい年へのエール）

静寂の三輪の磐座寒詣　藤原勲

（寒詣は白衣・裸足がしきたりとか。当会の三輪山の初登拝の折にも毎回素足の男女の登拝姿に出会い、思わず粛然となる）

初春や全てが初の初詣　辻本信一

（手水も使えず鈴紐も取り外され、参拝も密集を避けて分散させる。今年の初詣は初めて尽くし。頭韻に「初」の工夫）

コロナ禍の春に想を新たにし　冨江文雄

（全世界が等しくコロナの下に。夫々の社会・文化・政治・個人の生き方が問い直される。新春、先ずは脚下照顧をと）

赤べこを並べて飾る鏡餅　古川祐司

（丑年とて、厄除けの「赤べこ」が鏡餅と並んで床の間に）

〈近吟〉

永観もしばし見返る紅葉かな　藤原勲

積み重ね古代繙く読み始め　阿部和生

冬天に軌跡を追いし橋の上　阿部和生

足痛みのぼる滝坂敷紅葉　八木順一

夫婦して冬日背中に野良仕事　八木順一

冬晴れや燥げる子等の声達く　笠井文夫

鶏糞を運ぶ畦の背帰り花　岡田安弘

移植ごて姉さん被りの花畑　岡田安弘

矢田の山紅葉に鬼滅模様とは　坂東久平

藷掘りつ焼酎の酝旬ひけり　小山喜与男

寒の空からめ取らんと大榎　古川祐司

新蕎麦を打てば会ひたき友の在り　古川祐司

字遊字感

ロボットくんの原稿

岡田 安弘

メカに弱い。そもそもスマートフォン（スマホ）の機能を表すＳＮＳなどの横文字の意味が分からない。携帯電話を使う人に出会うと嬉しくなる。

ガラパゴス諸島が「ガラ携」の名の起こりと知った。市場から孤立した商品と言うことらしい。孤立と言うなら固定電話の方だろう！！思わず気炎をあげる

自宅の電話にかかってくるのは、ほとんどセールス。連れ合いは「ベルがうるさい」と、電話機を小生の部屋に押し付け、スマホ暮らしに切り替える。バカ正直に受話器を上げているうち腹が立ってきた。ガラ携を買ったきっかけだ。固定電話は留守電にしたまま。

ガラ携の取扱店は再三、スマホへの買い替えを要求してきた。とうとう「メンテナンスは近く終わりです」と言う。抵抗もここまで。娘がガラ携の新機種を見つけ、勧めてくれた。未だ操作に慣れない。

『近い将来、人工知能（ＡＩ）のロボット記者がスポーツ面の記事を書く』。3 年ほど前の新聞記事だ。ずっと気になっていた。ロボットくんに任せてよいものか心配だ。スポーツ部の記者をしていた後輩に「どういうこっちゃ」と解説を頼む。

昔、スポーツ記者の筆の速さには勝てないと思った。野球のナイターは朝刊の原稿締め切り時間との勝負だ。スコアブックをつけながら、試合経過と結果の総評（戦評）をスポーツ部のデスクに宛て電話で吹き込んでいた。

全ての競技の戦評を載せるにはページが足らない。なるだけたくさん掲載するため戦評は短文が良しとされた。戦評はスポーツ記者の筆力を量る目安でもあった。

後輩はメカ弱者にも分かりやすく解説してくれた。デジタル時代で新聞の読者数は下降線をたどっている。経営側は人件費を抑制するため、記者減らしを考える。これがロボットくん誕生の経過らしい。

朝日新聞社は、これまで掲載された高校野球の戦評８万本をイニングなどと組み合わせ、コンピューターに記憶させた。手書きしていたスコアブックは、すでにパソコンに打ち込む電子スコアブックになっている。試合終了と同時に電子スコアブックをＡＩに入力。それをコンピューターが読み込み、1 秒で戦評が出来上がる。キーボードで出稿を促せば済み。

テスト段階の失敗も話してくれた。ロボットくんが練習用の原稿を書いた。「２ランスクイズ」という表現を使ったが、出来上がった原稿「２ランスクイズ」の文字はなかった。高校野球で使われたことがない戦法だったため、ＡＩは記憶していなかった。

2019 年 8 月、第 101 回全国高校野球選手権決勝、履正社５－3 星稜戦。ロボットくんの戦評がインターネット版で公開された。

『履正社が決勝戦にふさわしい接戦を逆転でものにし優勝した。1 点を追う３回、井上の本塁打で逆転。同点に追いつかれた８回、一死三塁から野口の適時打が勝敗を決めた。星稜は再びリードされた９回に好機をつくるが、あと 1 本が出なかった』。記者が書いた紙面と遜色ない出来栄えだ。

日経新聞は上場企業の決算報告でＡＩを活用しているそうだ。ＮＨＫはプロ野球の３００万球にのぼる打席のデータをＡＩに記憶させ、投手の配球を予測する機能を開発した。ＢＳＴＶの番組で試用している。

⚾　⚾

ロボットくんの活躍で、記者の筆力を鍛える場が失われるのではなかろうか心配だ。後輩は「試合の熱気が伝わらない面もあります」と言う。ロボットは感情表現ができない。えらい時代になったなあ、と応じるしかなかった。

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理をせず

活動日：　毎週木曜日　９：00～15：00
（前日水曜日、19 時前の NHKTV 天気予報にて午前中の降雨確率60％以上の場合は翌金曜日、木曜日の同予報も同様であれば金曜日も中止）
場　所：奈良市佐紀町、奈良阪町、法蓮町、法華寺町にまたがる約 16 haの里山林地
アクセス：ＪＲ平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10 分
　　または、奈良交通バス亭「佐保台西口」又は「平城大橋」から徒歩７分
携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）お椀、コップなど
お問い合わせ：冨井

1 月の活動について

７日：初出式＆10 年継続会員記念植樹式
14 日：　アダプトプログラム
28 日：備品点検日

1 月　各グループ活動予定

グループ	活　動　予　定
里　山	シイタケ榾木用コナラ伐採/シイタケ採集/マキ割り/下草刈り/佐保自然の森竹林整備/シイタケ榾木の製作/ ユート：松整備地区の笹刈り
エコファーム	豌豆用支柱竹採取/冬野菜収穫/水田及び水田周り整備/豌豆支柱立て/豌豆ネット張り/チップ入れ
景　観	整備：実りの森竹林整備の事前調査/実りの森整備・竹林整備 ミツバチの巣箱周辺整備 ビオ：タナゴ池整備、水路整備 花：七草の採集と七草粥作り/休中の点検と霜囲い/花生姜の間引き（株起こし）/梅の寒肥やり/アジサイ園の寒肥、整備/紫蘭園掘起し土の整備
パトロール	ミーティング/観察路整備、丸太階段更新/展望広場工事 コースパトロール：１－２－３－４
果　樹	記念植樹/器具収納倉庫の建設/ウメの剪定/寒肥の施肥ウメ、カキ、クリサクランボの苗植え付け/実りの森Ｂ地区の灌木整理

行 事 案 内

歴文クラブ主催＜一般募集＞

令和３年度新春研修会

「大神神社初詣と三輪山登拝」

中井 弘

令和二回目の初詣は、コロナの感染拡大を受け、残念ながら恒例となっていた拝殿でのお祓いや新春懇親会は中止と致します。

各自、拝殿正面からご神体三輪山を拝礼した後、登山組は三輪山に往復２時間かけて登ります。山麓組は狭井・久恵彦神社などを巡り、平等寺にて廃仏毀釈受難の歴史を教わります。

大神神社のご祭神は大物主大神です。

日本書紀によると第十代崇神天皇の時代（3 世紀中～4 世紀前半に実在か）疫病が大流行し民の死亡するもの、半ば以上に及ぶほどであったという。民族が絶えるほどの状況に追い込まれました。この疫病の正体は大物主神の祟りだったのです。崇神天皇はどのような対策を打ったのか。コロナ対策の参考になるでしょうか。現地で解説します。

記

日 時：2021 年１月 12 日（火）雨天実施

集 合：JR 三輪駅前　　9:10

交通機関：①近鉄西大寺 8:05 急行→（天理乗換）→JR 天理発 8:51→三輪 9:03 着

②JR 奈良発 8:37→天理 8:51→三輪 9:03 着

持ち物：雨具、ストック（現地に杖あり）

＊正午大神神社にて解散につき弁当持参自由

担当世話人：中井弘、古川祐司、八木健彦

申込み先：青木幸子

「新春ならやま研修会」のご案内

平田 範光

20 周年を迎える記念の年、「新春ならやま研修会」を下記要領で開催致します。

講師は、神戸大学大学院農学部 森林資源学研究室 教授 黒田慶子先生 です。

黒田先生には平成 22 年２月に「ナラ枯れ問題と里山林の管理」についてお話していただいています。

会員の皆様は、常々、いろいろな場面で里山について勉強されていると思います。今回は、先生のご講演もいただく一方、20 周年という節目にあたって、できるだけ私たちの「ならやま」について里山林を中心に研鑽を深める場にしたいと考えています。そのため、例年の新春「講演会」ではなく新春「ならやま研修会」として開催することとしました。先生には当日午前中にならやまにお越しいただき、里山林の実態をご視察いただく予定です。

会員の皆様には日ごろの疑問を少しでも解消するとともに、ならやま里山林について、理解を深めていただければと思います。奮ってご参加いただきますようご案内申し上げます。

記

日 時：2021 年２月７日（日）

13 時～16 時（懇親会はありません）

受 付：13:00～13:30

場 所：ホテルリガーレ春日野　奈良市法蓮町

ホテルバス送迎：JR 奈良駅東口 12:15→→

近鉄奈良駅⑥出口「奈良駅前交番」裏 12:20

２月ならやま活動＆行事予告

＊ 椎茸菌打ちイベント　20 日（土）

＊ 新春ならやま研修会　７日（日）上記に案内

＊ 月例研修会　９日（火）下ツ道を歩く

＊ 歴文研修会　（日程未定）　河内の馬飼Ⅱ

2020 年 12 月度幹事会報告

日時：11 月 24 日（火）10:00～12:40
参加者 20 名、欠席者 1 名

Ⅰ.会長挨拶 新型コロナウィルス感染拡大中、
幹事会で十分検討を。人の和・創造・実践を。

Ⅱ.会計、総務部より

1.会員動向　168 名変化なし

2.会計報告　収入、支出の説明あり

Ⅲ.活動・行事関係に関わる課題・懸案事項

1.3ヵ月スケジュール

. 1/7 初出式　七草粥のみとする。
10 年継続会員記念植樹（富有柿）を行う

. 2/7 新春ならやま研修会

. 2/20 椎茸菌打ちイベント（予備日 2/21）

2.ならやまプロジェクト関係

. 12/17 の里山林の樹木現況調査はできる限り
幹事全員参加とする。里山 G は資料を用意

. 佐保自然の森竹林整備　12/3 協働活動

. 展望広場工事、年内に枕木敷設。

. 草刈りの安全講習会　年明けに実施する。

. 新春ならやま研修会 2/7　講師は黒田先生
午前中に先生を里山に案内する。

Ⅳ企画、助成関係事業案件

1. 記念モニュメント
関係のできた大学生から提案を受けた。20 周年記念として制作検討中。ならやまにある自然素材で。場所は緑陰広場の一角に。

2. 樹木図録の表紙絵を会員家族からも募集。

3. 助成金確認メモ資料説明あり

. 植樹について全体計画を調整し年度内に実施。

. 主な残件、展望広場工事と竹林整備に注力。

Ⅴ 喫緊・提案事項

. コロナ対応は県と市のガイドラインを基本として判断することとし、当面は活動を継続する。会員は自己責任による慎重な判断を。
緊急時には三役またはならやまプロジェクト委員会メンバーで検討する。

以上

次回 1 月度幹事会は 12 月 22 日（火）

編集後記 ＜新しい想い出作りに向かって＞

新しい年が始まったばかりだが、「蛍の光」の歌について書いてみたい。

日本では、年の終わりや卒業式に流れる曲だが、原曲はスコットランド民謡の「Auld Lang Syne」で、皆さんよく知っているだろう。

英語の詩は少し複雑な意味を含んでいるらしい。日本のように別れの時に歌われるだけではない。「昔に遊んだり、行動を共にした人たちの事は忘れはしない。また懐かしい想い出を語りながら、一緒に過ごしたい。新しい物語を作っていきたい」という意味あいも含んだ詩なのだ。

2020 年は、多くの人が会えず、話せない年だった。そのせいで、いつもはあまり思いだすこともなかった人たちにも会いたい、話したいと感じた方はたくさんいたのではないか。

「奈良・人と自然の会」も年月を重ねて 20 周年となる新たな年 2021 年を迎える。

いろいろな活動・行事・改革に関わった多くの人々のことを思い起こしながら、新しい年に繋げていきたいと思う。

（コロナウィルスのことは忘れたい。　勝手子）

発行：奈良・人と自然の会
URL ： http://www.naranature.com
編集代表 Mail: editor@naranature.com

表紙写真：

丑もいろいろ。力合わせて今年も楽しく！

12000 歳の力が合わさることでもっと楽しい活動ができますように。（作品提供：鈴木末一）